

王滝村 議会だより



令和4年度からは木曾町中学校に編入、休校前 最後の中学校入学式（4月6日）

3年3月定例会概要	2P	～	4P
一般質問	3P	～	5P
木曾広域連合議会定例会報告他	7P	～	7P



令和3年度一般会計当初予算可決

特別会計を含めて総額20億5,537万円

一般質問には三浦征弘氏、下出謙介氏の2氏が登壇

3月定例議会は3月9日に開会。2日目を17日に行い、令和3年度一般会計当初予算を含む議案全てを原案通り可決し閉会した。

2日目の一般質問には、三浦征弘氏、下出謙介氏の2氏が登壇した。

また、2日目の議会定例会閉会后、全員協議会が開かれ、太陽光発電事業の経緯について村側からの説明を受けた。

<令和3年度一般会計当初予算概要>

令和3年度の一般会計予算は、前年比2億6,700万円余減の18億300万円余で、主な事業は以下のとおりとなっている。歳出が歳入見積もりを上回るため、財政調整基金から6,181万7千円を繰り入れる。

【主な事業】

○新型コロナウイルス感染症対策

村内プレミアム商品券の発行に1,445万3千円、小規模事業者持続化補助金600万円、利子補給金135万円、高齢者コミュニティセンターの改修165万円、固定資産税の減免など。

○御嶽山安全対策

玉滝頂上避難施設建設1,350万円、避難壕移設工事1,620万円 登山道整備2,100万円、パトロール員による監視業務など1,981万円。



安全対策が進む御嶽山玉滝頂上

○地域おこし協力隊事業他

2,248万円です。5名を予定、集落支援員事業は2,017万4千円で5名を予定。

○村誌編纂事業

歴史編Ⅱの発行1,200万円。今年度で一旦終了。

《一般会計当初予算質疑》

問（吉田） 登山道整備に600万円の予算が計上されているが、具体的な箇所は決まっているか。

答（経済産業課長） 令和2年度に実施した田の原の木道（遊歩道）の続きの部分の整備を予定している。

問（吉田） 田の原への入込も少しずつ回復している中で、遊歩道整備は非常に良いことだと思うのでよろしくお願ひしたい。

問（吉田） 遊歩道以外の登山道について、大雨などで道が荒れることがよくあるが、この予算の中で整備のための材料を購入することは可能か。

答（経済産業課長） 遊歩道整備で余った材料を活用できるほか、必要であれば材料を購入することも可能である。

問（吉田） 小規模事業者持続化補助金について、令和3年度予算計上となるが、例えば令和2年度中に新型コロナウイルス感染防止対策を施した事業者は対象とはならないのか伺いたい。

答（総務課長） この補助金については、換気装置や噴霧器など主に設備関係を想定している。

今後事業者へのヒアリングを行いながら、これまでの（令和2年度）設備投資も含めて援助できるような制度設計としていきたい。

問（吉田） 田の原観光施設の指定管理料が計上されていないが、令和3年度の運用について伺いたい。

答（総務課長） 令和3年度については通常営業はせず、避難施設としての活用を考えている。管理はパトロール員に委託する予定である。デジタルセンター工事着工に伴い、公衆トイレを解体したため、仮設トイレも設置はするが、田の原観光センター内のトイレもお客様向けに活用する。

問（胡桃澤） 新規の空き家対策補助金について伺う。補助金の上限が100万円とあるが、補助率についての記載がない。補助率の上限の設定はしていないのか。

答（副村長） 補助率の上限は3分の2で設定している。

問（胡桃澤） 空き家の有効活用や移住定住者の増加を目的に行われる施策だが、この補助金を利用してもらうために、今後、村として何をしていくのか。

答（副村長） まずは空き家の今後の利用について、所有者の方々のお考えを伺っていく。その上で希望された方には、しっかりと説明をさせていただき、移住定住者の増加へつなげていきたいと考えている。

問（胡桃澤） 地域おこし協力隊事業について、来年度は新規で2名の募集をしていたが、応募状況はどうだったか。

答（総務課長） 1名の応募があったが、募集要項

に条件が合っていなかったため、書類は返却させていただいた。現在、再募集をしている。

問（三浦清吉） 基金取崩しが1億数千円あるが、基金を取り崩さなくても済むよう、ふるさと納税を積極的に進めたらどうか。今年が多めに設定したとあるが、6月定例会までに進めて頂きたい。

答（総務課長） ふるさと納税を大幅に（700%昨年比）増額、返礼品を6月議会までに何らかの報告をしたい。返礼の想定は、イベントの参加権利、プレミアム商品券村内の宿泊施設等で使用可能な応援券などを想定している。

問（三浦清吉） DMOと観光関係予算との関係で、白巣方面の環境整備1,617万余円はどこを示しているか。また御嶽山噴火後の対応について、あまりに強く出してしまうと、まだ、御嶽は危ないのではないかというイメージも強くなる。PRの仕方をどのようにやるのか伺いたい。

答（総務課長） 木曾御嶽観光局5年目（最終年）推進交付金の負担金、観光施設関連支出金は殆どがスキー場関連の修繕費など（指定管理料はなし）御岳山安全対策は王滝村のみでなく岐阜県側、木曾町を含めて継続的に実施する必要がある。火山防災協議会、PRについては火山と言う事をよく理解してお越しく下さいという情報発信が重要と考えている。デジタルセンターが大きな役割を果たす。

問（三浦清吉） 火山防止協議会があり予算計上していることは理解できるが、田の原の工事、スキー場の宣伝などの方法をどのようにするのか。逆にこれを利用し、お客さんの増につながることを期待する。白巣方面の環境整備はどのようにな



解体前の田の原公衆トイレ



跡地にデジタルセンターが建設される

るのか。

答（経済産業課長） 1,600万余円は、村道すべての環境整備の工事費、1,741千円が白巢峠方面の草刈等の費用となる。基本的には滝越地区から峠まで業者発注で実施する考えであるが、森林管理署の方で、かなりの部分協力できるかも知れないと言っているので、協議して出来るだけ早い時期に実施したい。

問（三浦清吉） ALT事業は、週3日で3,432千円となっているが算出根拠は。

答（教育次長） 王滝村と木祖村で1名の講師で週2日は木祖村で授業をお願いしている。

問（三浦清吉） 総額と、お願いしている会社名が分かれば伺いたい。

答（教育次長） 総額については約570万円、会社名はエー・トゥー・ゼットという会社である。

問（三浦清吉） その講師の能力などで違うと思う

が、少し高いのではないかと思う。子供たちが理解して授業を受けていると思うか。

答（教育次長） 木祖村の方で授業を行い、王滝村は小中で授業を行っている。また月1回ほど保育園の子供たちにも授業を受けてもらっている。

問（三浦清吉） 宅地造成分譲事業費について昨年も伺ったが、予算が21,000円、これを継続していく意味があるのか、これは廃止すべきでないか。

答（総務課長） 今年度（令和3年度）が最後ということで県との調整をしながら、会計を閉じる方向で進めている。



一般質問「そこが知りたい」

本文は答弁も含め質問者の執筆をもとにしています

政策決定のプロセスは？

三浦 征弘

問 太陽光発電や水力発電などの設置許可をどのような基準で、また村民への説明でやっているのか伺いたい。

答 説明会は2～3回やっている。

問 今までの歴代村政は大事な事を決める場合は区長会に計ったが今は全然やらない。2～3回やっても業者主導だ。村主導が大事ではないか。

答 大事なことを決めるのは区長会でなく議会だ。

問 それはそうだがやり方が違う。まず区長会に諮る。それは全村民に伝わるからだ。そこで村民の意向が明瞭になれば、それから議会だ。

まとめ 大事な事、大きな事を決める場合は歴代村政のように区長会（行政連絡委員会）に

計り村民の論議を経てそれから議会に提案することが大事なことである。

問 今回の歴史編1の内容から村は三浦太夫は朝比奈三郎（義秀）と認定したようなもの。これは王滝村の公式見解と見て良いか。

答 それは村としての公式見解ではない。伝承と東鏡や源平盛衰記にある、それを書いただけである。

まとめ これは由々しい答弁だ。記事には朝比奈三郎以外の名はないから村は「認定した」と見るのは普通であろう。伝承と東鏡や源平盛衰記にあるのは何十年も前から日本中で知られ、語られ、誰でも分かっていたことだ。今改めて記事で強調する必要は全くない。今になってこの答弁は大変な矛盾。村は「朝比奈三郎」と決めて、別のところでは「朝比奈三郎と決めていない」と言っていることは大変な問題である。

第5次王滝村総合計画の現状と課題

下出 謙介

問 村づくりの基本となる、第3次長期振興計画は2001年に策定され、第4次長期振興計画は2011年～2020年までの10年間。これと平行に2019年に王滝村総合戦略が策定される戦略会議が進められている。この総合計画の位置づけとして、持続可能な村づくりの基本計画が進められているが、今後、長期振興計画を総合戦略計画として、どういった形で持続可能な村づくりを目指し進めて行くのか。

答（村長） 長期振興計画については、これまで4次にわたって計画を策定し施策が行われてきた。この間、日本全体を取り巻く環境は大きく変化し、過疎化、高齢化が進み、そして少子化に伴い中学校が維持できなくなるなど10年前当時は考えもしなかったことが現実を帯びており、村としては非常に大きな課題が重くのしかかっている。そういった状況をしっかり捉え、長期振興計画と総合戦略を一体化した王滝村総合計画を策定することとし、委員の意見を集約しながら、現在に至っており最終のとりまとめを行っているところである。今後5年間持続可能な村づくりを進めるためにも、世論の動向を把握しながら、着実に体制整備を行い、人材確保、財源や村有施設の有効活用等、事業展開が必要であると認識している。

問 王滝村総合戦略会議〈戦略会議〉の進捗状況と現状と課題について、2025年までの5年間の目標（生産性：実効性：ピンポイント）について伺いたい。



シトラスリボン（新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見を防止するシンボル）づくり

答（総務課長） [進捗状況について] 現在3月中に総合計画を策定することとし、タイムスケジュールは今週以降、総合戦略全体会議を開催する予定である。

[課題について] 全国的な人口減少、少子高齢化は村にとっても深刻な問題、また御嶽山噴火災害以降村の経済も持ち直しつつある中、新型コロナウイルス感染拡大により新たな打撃を受けている。

[現状について] 第二期総合計画期間中の目標については7つのプロジェクトと28の基本施策を掲げ、戦略計画における透明性、見える化を確保しながら5年後の目標人口を648人としている。しかし、この目標人口については可能性はまったくないわけではない。

問 ピンポイントについて伺います。

答（総務課長） 村民憲章5本の柱を基本とし計画の策定にあたっては大きくずれることはない。

まとめ 3月中、いわゆる今月を目処に総合計画の作業を進める事については、ずれることなく進めていただきたい。また、計画の途上に、御嶽山噴火災害以降、追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染拡大による大打撃受け（警鐘を鳴らし続けている）こういった厳しい状況化にあるが、現在の村の現状に見合った計画が不可欠と考える。困難な道のりと思うが頑張っ進めていただきたい。

問 第3次・第4次長期振興計画の検証と、その結果と評価について、どのように検証し、その検証した結果をどう評価し、総合計画に繋げているのかについて

答（総務課長） 検証については第4次長期振興計画、前期基本計画の策定にあたり、第3次長期振興計画・後期基本計画の検証を行っている。検証の報告書は村のホームページで公表している。その結果と評価については、現在は、前期基本計画の検証を実施しており、第4次計画の最終評価については令和3年度中に実施することとしている。

まとめ 検証は行っているようだが、遅れ、遅れの後追い検証では検証とはいわない。もつとしっかりと計画遂行をしていただきたい

問 村の高齢化率について

答（健康福祉課長） 65歳以上の高齢人口が占める

割合は、令和3年3月現在で42.9パーセント。

問 総合計画が令和3年度の当初予算にどのように反映されているのか伺いたい。

答（副村長） 今回の当初予算について、御嶽山登山道整備、空き家活用助成金など一部を除き施策的経費は計上してないが、第2期王滝村総合計画策定後、新過疎法や今後、国のコロナ対策交付金等の状況を踏まえ、施策的経費の追加補正を6月頃に向け検討していく。

まとめ 現状を鑑みながら、追加補正で補っていただきたい。

問 総合計画（会議の進み方）の進捗状況について、議会にはいつ頃説明するのか。

答（総務課長） 平成23年の自治法の改正により、法的な策定義務及び議決について必要ないとされているが、村の根幹となる計画であるので議会始め住民への周知を考えている。第2期王滝村総合計画は、4月中に概要版を全戸配布する予定をしており、議会には遅くとも6月定例会前までには説明の機会を設けたいと思っている。

問 法的な根拠されていることはその通りとしてしかし村民から付託を受けている以上、チェック機関として、根幹に係わる重要な施策であるので、当然説明を求めることになる。

問 計画の遅れについていくつかあると思うが、その要因などの原因について伺いたい。

答（副村長） 本来であれば、本定例会で概要を示すところだが、策定作業が遅れていることについては申し訳なく思う。遅延について率直にお詫びする。

問 愛知用水の水源地として、下流域受益市町との交流促進事業について伺いたい。

答（副村長） コロナ禍によりほとんど交流事業は行っていないが、大府市、東郷町へは今年50周年にあたることから、記念品等贈っている。また、下流域とは80年のつながりの中、今後もしっかりとパートナーシップを図って行きたい。

問 譲与税について、王滝村の譲与税は人口割、森林面積から見て村にいくらもらえるのか。

答（副村長） 平成31年から260万となるが、令和6年には1,000万円となる見込みである。

まとめ 村は国有林を有している。この国有林が譲与税がもらえるよう陳情などとおして働きかけを行っていただきたい。

問 バイオマス発電（熱、供給事業計画について）このメカニズムについて、全員協議会を通してメカニズムについて説明があったが、その後、結果

どうなっているのか姿が見えてきていない。事業として立ち上げれば、中間報告、進捗状況、あるいは、調査中なのか、中断しているのか、取りやめたのか、など何らかの説明があっても良いのではないか。このことについて伺いたい。

答 木質バイオマス発電については、議会側にも説明してきているが、平成31年に意外な結果に終わってしまった。

問 今後についても議会をないがしろにしないでしっかりと説明を果たしていただきたい。

まとめ 長期振興計画（第3次）（第4次）それと平行に総合計画が村民憲章5本の柱を基本として策定作業が進められているが、全てが後追い作業であり、検証も後手に回っているのが現状である。また、議会にも何らかの説明があってもしかるべきところ、そういった説明など全くなく、今回の質問に対しても、納得のいく明確な答えが得られなかった。今後、事業展開にあたり、村づくりの基本となる総合計画を速やかに策定していただきその結果について、議会に対しても進捗状況などをとおして説明と報告を行っていただきたい。



毎年、愛知県水道北部・南部ブロック協議会が水源地を訪問する。

総務文教常任委員会委員長報告

2月22日に委員会を開催し、令和3年度の村誌編纂事業について説明を受けた。歴史編Ⅱについて、章立てを変更し明治時代から終戦までとすること、令和3年11月に刊行すること、令和3年度末で村誌編纂室は廃止することなどが示された。資料収集や整備の困難な状況、重要性は認識しているが、いままで何度となく刊行スケジュールが遅れており、今回は確実に刊行するよう要望した。

令和3年度木曾広域連合議会 2月定例会報告

木曾広域連合は、令和3年第1回定例会を2月26日（金）に開会。提出議案は、条例案件3件、工事請負変更契約の締結1件、当初予算案件3件、補正予算案件3件で原案どおり可決し、その日に閉会した。冒頭、地球温暖化対策に取り組む決意を示す「気候非常事態宣言」を共同で宣言し、郡内6町村の首長や議会議長が宣言文に署名した。

○議案審議

議案第1号 租税特別措置法の一部改正に伴う、関係条例の整理に関する条例について

・所得税法等の一部を改正する法律の施行による、租税特別措置法の見直しを受け適用となる連合条例3件について、条文などを整備。

議案第2号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について

・国の特例措置に準じた防疫作業手当を定め、作業に従事した職員に特別勤務手当を支給するため、条例の一部を改正。

議案第3号 木曾広域連合、介護保険条例の一部を改正する条例について

・第8期木曾広域連合介護保険事業計画に基づき、令和3年度から介護保険料率の改定、及び介護保険法施行令の見直しに伴い、条例の一部を改正。

議案第4号 工事請負変更契約の締結について

・木曾クリーンセンター旧炉施設解体工事の施工の一部に変更が生じ、請負額の変更契約を締結するため、議会の議決を求める。

議案第5号 令和2年度 木曾広域連合一般会計補正予算（第4号）について

・歳入歳出それぞれ1億3,036万3千円を減額し、予算総額を46億4,989万2千円とするもの。

・主な内容は、旧炉解体中の事故により、施工日程に影響をうけて工期の延長が生じた為

に、繰越明許費（1億3,000万円）を計上。また、火葬管理（緑聖苑4,700万円）及び木曾寮建設設計（3,200万円）に係る2件の委託業務について債務負担行為の補正（追加及び変更）を計上。

議案第6号 令和2年度 木曾広域連合介護保険特別会計補正予算（第4号）について

・歳入歳出それぞれ、1,013万9千

円を追加し、予算の総額を44億6,672万6千円とするもの。主に、歳入でコロナ禍に伴う給付金等財源支援として、特別調整交付金及び介護保険災害等臨時特別交付金を併せて365万4千円を計上。歳出で、国庫補助金の増額を受けて、保険給付費の財源振り替えや総合相談事業での町村への交付金を増額。

議案第7号 令和2年度 木曾広域連合下水道事業会計補正予算（第2号）について

・493万1千円を減額し、補正後の収支総額を1億3,358万5千円とするもの。主な内容は、人勤による人件費の削減及び、各種業務の精算処理に伴う補正。

議案第8号 令和3年度 木曾広域連合一般会計予算

・予算総額を歳入歳出ともに42億3,548万円とし、対前年度比5億3,888万2千円（11.3%減）とするもの。

・主に、年次的な整備の初年度となる木曾寮建設事業に伴う用地造成費や木曾文化公園ホール天井改修費、消防台ヶ峰基地局擁壁補強工事など急務とされる施設の改修費など計上。

議案第9号 令和3年度 木曾広域連合介護保険特別会計予算について

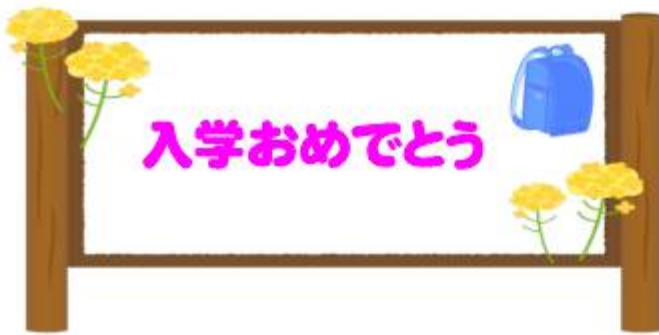
・予算総額を歳入歳出ともに39億9,867万6千円とし、対前年度比で3億1,749万3千円（7.4%減）とするもの。第8期の事業計画に基づく、介護サービス事業や介護保険制度改正に伴うシステム改修費などを計上。

議案第10号 令和3年度 木曾広域連合下水道事業会計当初予算について

・収益的収支の予算総額を収入・支出ともに1億2,247万円とし、資本的収支は収入額0円に対し、支出額2,324万9千円を計上。不足額は、当年度の損益勘定留保資金及び引継金からの補填処理を見込む。



気候非常事態宣言が共同で宣言された



議会日誌

12月

- 12日 村議会12月定例会・議会だより編集委員会
- 25日 例月出納検査(11月分)・第6回総務文教常任委員会
- 31日 除夜祭

1月

- 1日 元旦ウォーキング
- 3日 王滝村成人式
- 5日 御嶽神社神楽始め、年賀奉告祭
- 12日 王滝村消防団出初式
- 15日 議会だより発行(151号)
- 18日 おんたけ2240スキー場視察
- 26日 例月出納監査(12月分)
- 28日 広域連合議会全員協議会

2月

- 2日 長野県市町村総合事務組合議会定例会(長野市)
- 10日 長野県町村議会議長会役員会(web)
- 17日 広域連合議会議会運営委員会・総務常任委員会(木曾町)
- 18日 広域連合議会経済観光常任委員会・福祉環境常任委員会(木曾町)
- 22日 第1回議会運営委員会・第1回総務文教委員会・第1回スキー場特別委員会
- 25日 例月出納検査(1月分)
- 26日 広域連合議会2月定例会(木曾町)

3月

- 4日 第1回全員協議会
- 9日 村議会3月定例会

《 編集後記 》

今年の冬は寒いと言われていましたが、厳しい寒さは続かず積雪もさほどではなかったと思われます。スキー場が最盛期だった頃はもっと寒く積雪も多くて大変でした。地球の温暖化は着実に進んでいるということかも知れませんが、3月議会では、議案の審議に特に問題はなかったように思われましたが、村政には重大な齟齬が散見されて、何とも言えない重苦しい気持ちになりました。王滝村に本当の春が来るのは、まだ遠い先のように思われてなりません。(祥)



木曾に名古屋城の“金しゃち”がやってきた
(4月6日・道の駅 木曾福島)

発行/王滝村議会
編集/議会だより編集特別委員会
長野県木曾郡王滝村3623/ ☎0264-48-2001